

特集

西多摩 マウンテンバイク 友の会 & 町議会

西多摩の丘陵や里山地域でマウンテンバイクの愛好家が集まり、里山の再生、公園や遊歩道の整備、地域の社会福祉活動への協力などを行っており、町の防災訓練などにボランティアとして活躍されている「西多摩マウンテンバイク友の会」の皆さまにお話を伺いました。

自然を感じられるルートをつくりたい

Q マウンテンバイクの魅力は？

― 自然の一部になったかのような気持ちになれる。一体感…。爽快感…。
― ギアもあるしパンクもしにくいので、山道やでこぼこ道も走れるところ。
― 自分の力で風を創れる。
― 自然をダイレクトに感じる。走りを止めた時に、鳥のさえずりやカエルの声などが聞こえてきて…。
― 小さな子どもから年配の方まで、家族で乗って楽しめるところ。

Q ボランティア活動を始めた、また、参加したきっかけは？

― 自然の中と言っても、走れる場所、走ってはいけない場所がいまいで。地権者さんなどと協議しながら走れる環境を作りたいかった。それから、山の中を走っていると、荒れた山、崩れた道が目につく。そうした所を自分たちの手で何かできないかと思って。
― 自分の子ども達に、瑞穂町を知ってほしい、良いところを伝えたいと思って。友の会では家族で活動できるし、安全に

もサポートしてもらえるので。

― 単純に地域貢献。楽しめる場所を提供してもらっている事への恩返しにも繋がるし。
― 危機意識から。自然の良い環境がこれからはもずっと維持できるように。

Q どんな活動をしているんですか？

― 里山里山の保全やごみ拾いなど地域のお手伝い。現在200人を超える会員がいて、昨年は80回延べ1000人程度が活動しました。

― 災害の時に協力できるよう、町のボランティアセンターに登録しています。
― 自転車の魅力と安全に乗るためのマナーなどの研修会や講演会。
― 子ども達と自転車で町探検をしたり。

Q 活動していて良かったと思うところは？

― 子ども達の瞳がきらきらと輝いて。積極性が自然と身に付いていく様を見ながら子育てが楽しくなりました。
― いろいろな人とのつながりができる。
― 人から多くの事を学べる。自分が成長できる。
― 外の団体からも声がかかるようになって…。どんどん世界が広がる。視野が広がる。

Q 大変だなあと思うことは？

― 人材育成。活動ごとにリーダーが必要になってくる。
― 自分の持っている能力と求められることのギャップ。会長からの期待がどんどん大きくなって…。(笑い)。
― 自然の脅威。台風や大雪の時、それまでがんばった成果が一瞬で無になることもあって…。

Q 今後、どんなことに挑戦したいですか？

― 子どもも大人も、みんなで安全にマウンテンバイクが楽しめる環境を作りたい。
― 今やっていることを続けて、未来に繋げたい。
― 瑞穂町の平地林や狭山丘陵などを繋ぎ、

Q 普段は何のお仕事をされているんですか？

― マウンテンバイクのお店。
― 介護福祉の仕事をしています。
― 横田基地の中で空軍消防隊の消防士。
― 自営の電気工事業。
― カメラマンでライター。この会のことを雑誌に掲載しています。

Q 瑞穂町のこと、どう思いますか？

― 身近に等身大の自然がある。
― 大きな建物がないので、景色が見渡せる。
― 自然が多く、子育て環境がいい。
― 造りこまれた自然ではなく、原風景がある。
― 町の人々がみんなで町を良くしているという感じがする。
― 立ち止まって振り返ったとき、素敵な風景の見えるまち。

Q 議会や議員、議会だよりについて一言

― 議員さんで思ったより身近に感じました。「議会だより」はパラパラみる程度でした…。新しくなって、読みやすくなった。
参加してくださった友の会の皆さん、ご協力ありがとうございました。



保存樹林地での維持保全活動の様子(長岡平地林)



(左から) 中沢 清さん 石川 淳さん 二瓶 哲彰さん 吉元 喜勝さん 鈴木 英之さん